

I 全体として

(低学年)

全体的に自己評価はよく、どの項目を見ても、昨年度と比較して、「とてもそう思う」「そう思う」を合計した割合（肯定的にとらえている意見の割合）が高くなった。特に「毎日の勉強がわかる」の項目で12ポイント、「家の人に学校の出来事をよく話す」の項目で9ポイント増加しているのは、喜ばしい結果である。なお、「自分の意見を発表できる」は、今年度新たに付け加えた項目である。

(高学年)

高学年は低学年と比べて、全体的に自己評価は低くなっている。「毎日の勉強がわかる」の項目で5ポイント増えているのは喜ばしいが、多くの項目で昨年度と比べて評価が低下している。特に、「家の人に学校の出来事をよく話す」「学校や社会の決まりを守っている」の項目で、それぞれ5ポイント減少しているところは、まず対応していきたい。高学年においても、「自分の意見を発表できる」の項目を今年度新たに付け加えている。

II 項目ごとに

- 1 「学校が楽しい」の項目では、肯定的に答えた低学年は100%で、昨年度より3ポイント増でした。中・高学年は昨年度より2ポイント減り、否定的に答えた児童が7%もいます。このことについては、個別具体に対応していく必要があり、まずは一人一人に声掛けをしていきます。児童の不安を取り除くきめ細やかな指導を心がけ、学校を楽しいと感じられるような環境づくりをしていきたいと思えます。
- 2 「友だちと仲良くしている」の項目では、肯定的に答えた低学年は98%で、昨年度より1ポイント増でした。中・高学年は98%で昨年度より2ポイント減りました。この項目は、1の項目にも関わってくると考えられますので、1と同様、声掛けをしながら個別に具体的に対応していきたいと考えています。
- 3 「毎日の勉強がわかる」の項目では、肯定的に答えた低学年は96%で、昨年度と比べて12ポイント、中・高学年は94%で、昨年度と比べて5ポイント増えています。継続して取り組んできている課題提示の仕方や思考を整理できる板書づくり、教室環境のユニバーサルデザイン化などが成果として現れてきたのではないかと考えます。一方で、否定的に答えた児童の実態把握に努め、個別に支援していきたいと思えます。
- 4 「自分の意見を発表できる」の項目は、今年度新たに設けたもので、昨年度との比較はできませんが、全学年にわたって否定的に答えた割合が、どの項目よりも高くなっています。

す。グループ学習やペア学習などを授業に積極的に取り入れ、自分の思いを表現する機会を増やし、表現できたことを認めるなど、児童が意見を表明することに対しての自信をつけていく指導を工夫していきたいと考えています。

- 5 「掃除を一生懸命やっている」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年では98%、中・高学年では97%で、昨年度と大きく変わらずよい数字です。これは、吹上小学校の特色でもある縦割り清掃の取組みの中で、中高学年の児童がリーダーシップを発揮し、低学年の良い手本となるように取り組んだ結果だと考えます。今後も、学校全体でみんなが協力して取り組む態度を育てていきたいと思っています。
- 6 「給食の時間が楽しみだ」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年では95%で5ポイント増え、中・高学年では84%で2ポイント減っています。給食指導においては、苦手な食べ物の量を減らしたり、完食した時にみんなで励ましあったりするなど、食事時の楽しい雰囲気作りに努めるとともに、食育の観点もあわせて指導していきたいと思っています。
- 7 「自分からあいさつができる」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年は93%で昨年度より6ポイント、中・高学年も90%と1ポイント増えています。この点においては、家庭・地域のご協力もあり、「自分からあいさつをする」良さに気づいている児童が増えてきたのではないかと考えます。今後もあいさつの大切さが伝わるような取り組みを続けていきたいと思っています。
- 8 「家族に学校の出来事をよく話す」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年では86%で9ポイント増えましたが、中・高学年では76%で5ポイント減っています。高学年になると、家で学校生活の様子を話すことが減ってきたとの声も聞きます。家庭での会話を増やしていけるように、より一層学校からの情報提供を充実させていく必要があると考えています。
- 9 「社会や学校のきまりについて守っている」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年は98%で変わりなく、中・高学年では91%で昨年度より5ポイント減りました。今後も、日々の教育活動の場を通して自尊感情を育て、友だちを大切にすることや集団の中でのきまりを守るなどの指導を充実させていきたいと思っています。
- 10 「学校はきれいで使いやすい」の項目では、肯定的に答えた児童は、低学年では99%で5ポイント増えましたが、中・高学年では86%で1ポイント減りました。施設の古さは否めませんが、自分たちで学校をきれいにし、大切に使いついでこうとする意識をさらに高め、より良い環境作りに努めていきたいと思っています。

- 1 「学校は、教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」の項目では、肯定的に答えた保護者は88%で、昨年度と同じです。一方、昨年度同様、依然として12%の保護者が「あまり思わない」と回答していることから、ていねいにその理由を検証し、家庭とより綿密な連携を図るよう努めていきたいと思えます。
- 2 「学校は、子どもに分かりやすい授業を工夫している」の項目では、肯定的に答えた回答は86%で、昨年度より1ポイント増えています。一方、「そう思わない」と回答している方が2%あります。今後もより効果的な方法で、分かる授業づくりに努めていくとともに、学習の様子を機会あるごとに伝えていきたいと思えます。
- 3 「学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分に行っている」の項目では、肯定的な回答は89%で、昨年より2ポイント減っています。登下校での交通指導や、不審者対策、健康教育や安全管理等を日々の活動の中で充実させるようにしていきたいと思えます。
- 4 「学校は、いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」の項目では、肯定的な回答が80%で、昨年より3ポイント増えています。日頃から一人一人の児童について十分目を配り、意識や行動の小さな変化を見逃さないように努めたこと、また、気になる児童や不登校の児童に対し、学校内での居場所づくりや、話しやすい環境づくりなどに努めたことが大きいと考えています。今後も、保護者や地域と連携を図りながら、いじめ対策に取り組んでいきたいと思えます。
- 5 「子ども一人一人が大切にされ、認められる小学校になっている」の項目では、肯定的な回答が84%で、昨年より1ポイント増えています。しかし、一方で「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答も(11%)と昨年度に続いて高くなっています。この点につきましては、教育活動全般において、どの子どもも自分の良さに気づくことができるような取り組みをさらにきめ細かく進めていきたいと思えます。
- 6 「子どもに命を大切にす心や、社会のルールを守る態度を教育している」の項目では、肯定的な回答が87%で、昨年より1ポイント増えています。今後も引き続き、保護者との連携を図るとともに、地域の方々の協力も得ながら、規範意識の向上に取り組んでいきたいと思えます。
- 7 「家庭・地域は、小学校に対してそれぞれの役割を果たし、連携・協力している」の項目では、肯定的な回答が88%と、昨年より3ポイント減っています。コミュニティスクー

ルとして、吹上の夕べをはじめとする育友会活動や、交通安全指導をはじめとする地域活動等で、多くの保護者や地域の方に協力いただいているところですが、今後もこのような活動をより広く知ってもらえるように努めていきたいと思ひます。

- 8 「学校施設は教育的配慮がなされ、美しく使いやすい」の項目では、肯定的な回答が65%で、昨年度より8ポイント増えたものの、最も評価が低い項目となっています。年2回の親子奉仕作業などで、保護者の方々の協力を得て、花の植え替えや農機具庫、体育倉庫の整理を行うことができます。トイレもきれいになりましたので、掃除をしっかりとするなど、今後もよりよい環境作りに努めていきたいと思ひます。
- 9 「子どもは、毎日楽しそうに小学校に通っている」という項目については、肯定的な回答が95%と、昨年から3ポイント増え、最も評価の高い項目となっています。しかし、4%の否定的な回答にも目を向けながら、今後もきめ細やかな指導を通して、誰もが学校を楽しみと感じられるような取り組みを進めていきたいと思ひます。
- 10 「子どもは、学習内容が分かり、基礎的な学力が身についている」の項目では、肯定的な回答が87%で、昨年度2ポイント減っています。否定的な回答は11%あり、学校で一人でやり終えることができるか、まちがいを理解しているか等、子どもの実態を把握し、家庭との連携を密にし、個に応じた指導につなげていきたいと思ひます。
- 11 「子どもは、小学校での出来事をよく話す」の項目では、肯定的な回答が75%で、昨年度より4ポイント増えたものの、依然として下から2番目の低い評価です。「あまり思わない」「思わない」と回答した保護者が24%いることから、今後とも、子どもたちが家庭と共有できるような学級での取り組みを心がけていきたいと思ひます。
- 12 「子どもは、誰にでもあいさつができています」の項目では、肯定的な回答が77%で、昨年より8ポイント増えています。子どもたちが元気よくあいさつすることで学校全体が元気になります。引き続き、家庭・地域の協力を得て、あいさつをすることの大切さを伝えていきたいと思ひます。
- 13 「子どもは、給食の時間を楽しみにしている」の項目では、肯定的な回答は81%で、昨年より4ポイント増えています。市内でも特においしい給食を提供できていると考えていますが、子どもたちには、「苦手なものは量を減らす」ことで、給食に関して大きなストレスを感じなくてすむようにしたいと考えています。これからも、食育教育を充実させることで食に対する意識を向上させていきたいと思ひます。